

車座ふるさとトークの開催

地域防災室

平成27年2月22日、二之湯総務副大臣出席の「車座ふるさとトーク」を長野県南箕輪村で開催しました。その概要は以下のとおりです。

1 車座ふるさとトークとは

安倍内閣では、大臣、副大臣、政務官が地域に赴き、テーマを決めて、現場の方々と少人数で車座の対話を行い、生の声をつぶさに聞いて、政策にいかすとともに、重要政策について説明する「車座ふるさとトーク」を開催しています。

2 長野県南箕輪村の概要

- ・明治8年、南箕輪村として誕生以来、合併はなく今日に至る。
- ・村の人口は増え続けており（H12：13,404人 → H22：14,543人）、2040年の人口推計では長野県内の市町村で唯一人口増加が予想されている。
- ・村の主な製造品は電子機器で、村の年間製造品出荷額の約6割を占める。
- ・信州大学農学部と協定を締結し、産業振興、人材育成等の分野で連携をとっている。（南箕輪村は全国で唯一、国立大学が存する村。）

3 車座ふるさとトークの概要

○参加者：15人

（内訳：女性団員、若手団員、大学生団員、サラリーマン団員、消防団協力事業所責任者、地方公務員団員、消防団員の配偶者）

○主な意見

- ・勤務中の出勤には、会社の協力はもちろんいるが、同僚の協力も必要。同僚の協力に感謝している。（サラリーマン団員）
- ・事務所に防災行政無線の受信機を置き、火災等の災害の場合には、従業員の団員に連絡をとり、出勤要請している。（消防団協力事業所責任者）
- ・消火活動後、「枕を高くして寝られるのは消防団の皆さんのおかげ」と言われ、とてもうれしく思った。（若手団員）

- ・学業との両立は難しいが、操法大会などを通じて学んだことを就職活動にも生かしたい。（大学生団員）
- ・子どもがまだ小さいので、夫が消防団活動で何日もあけることがあると、子育ての不安とストレスがたまっていたことがあった。しかし、消防団のつながりで地域の人たちとつながりができ、子育て等の手伝いをしてもらっているうちに、悩みが減っていった。（消防団員の配偶者）
- ・消防団の詰所に女子トイレがないところもあるので改善してほしい。（女性団員）



問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部地域防災室 山下
TEL: 03-5253-7561